

慶應言語学コロキウム

進化における言語の外在化

Evolution and the Externalization of Language

講師: 宮川 繁氏 (MIT 教授、東京大学大学総合教育研究センター特任教授)

日時: 2017年3月12日(日) 13:00-18:00

会場: 慶應義塾大学三田キャンパス 北館3階 大会議室

参加費無料 申込不要(使用言語: 日本語・英語)

言語の起源については、2つの異なる仮説が提案され現在盛んに議論されている。一つは、言語が数十万年から100万年あまりを経て段階的(gradual)に単純なものから現在の複雑なシステムに発展したとする仮説であり、もう一つは、10万年ほど前に徐々にではなく突然(saltational) 現在のような形で出現したとする仮説である。本発表では、最近のDNAやゲノムの研究に基づいて、人間の祖先は Two-Stage Externalization と呼ばれる2段階の展開を経て言語を獲得するに至ったと主張する。第1段階(Primordial Stage)は、鳥の歌や猿のアラーム・コールとほぼ同じシステムの外在化の段階で、人間特有なものではない。この段階は数十万年から100年以上続いたと考えられる。その後10万年ほど前に、この primordial system から人間特有の抽象的思考(symbolic thinking)の能力が発達し、それに伴って、Blombos Cave で発見された ochre や洞窟の絵、洗練された道具、武器などが現れた。言語もその一つである。第2段階(Language Stage)は、この抽象的思考を外在化した段階で現在にまで至っている。

主催: 慶應義塾大学言語文化研究所

〈お問い合わせ先〉

〒108-8345 港区三田 2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所

電話: 03-5427-1595 (事務室直通) メール: genbu@icl.keio.ac.jp

<http://www.icl.keio.ac.jp>